

## 主な研究活動

### 運営委員会

第3回	6月29日	2011年度海外提携機関への研究員の派遣について、2011年度海外提携機関からの招聘研究員について、センター研究協力者の資格等について
第4回	7月27日	2010年度奨励研究者の成果論文の査読分担について
第5回	9月28日	2011年度海外提携機関への研究員の派遣（再公募）について、2010年度奨励研究者の成果論文の査読結果について、『年報』執筆要領および査読基準の改定について、「ニューズレター」No.27および「年報」8号の編集計画について
第6回	10月26日	研究員の解雇および研究協力者の登録について、2011年度海外提携機関への派遣（再公募結果）について、漢陽大学校関係行事について、2012年度予算編成の基本方針について
第7回	11月9日	2012年度予算案について、次期センター長の選出について

### 研究員会議

第3回	11月11日	研究員の解雇および研究協力者の登録について、漢陽大学校東アジア文化研究所との学術交流協定の締結について、2012年度センター予算（案）について、次期センター長選出について
-----	--------	---

### 研究会

#### 研究班

『「マルチ言語版絵巻物による日本常民生活絵引」 編纂共同研究」 研究会	10月12日、26日、11月9日
『「日本近世生活絵引」 南島編纂共同研究」 研究会	7月4日、11日、8月17日、9月12日
「ヨーロッパ近代生活絵引編纂共同研究」 研究会	10月25日
「東アジアの租界とメディア空間」 研究会	6月3日、7月1日、22日、11月16日
「海外神社跡地から見た景観の持続と変容」 研究会	6月14日、7月23日

### 現地調査

調査テーマ	日 程	場 所	調査メンバー
水辺の生活環境史	8月1日～4日	北九州	田上繁、森武磨、藤川美代子
海外神社跡地から見た景観の持続と変容	9月18日～24日	台湾	津田良樹、橘川俊忠、辻子実金子展也、稲宮康人

### 表紙紹介

現在、ブラジルではさまざまなところで日本建築や日本庭園を目にすることができる。伝統的な庭園もあれば、かなりブラジル風にアレンジされたものもある。明治から昭和初期にかけて多かった日本からのブラジル移民だけでなく、現代に入ってから移民の2・3世が今度は日本に出稼ぎにやってくる現象も見られ、ブラジル国内の日本建築や日本庭園には歴史的な日伯の強い繋がりを感じさせるものが多い。現在ブラジルでは国際交流基金やJICAの活動を通してさまざまな文化交流が行われており、日本文化を紹介する催しでは日本建築や日本庭園が会場となって利用されている。表紙に掲げた2枚の写真は、そうした文化交流の様子を記録したものである。表紙下の写真は、サンパウロ中心部にあるイピラプエラ公園内の日本庭園において開催されていた盆栽の展覧会場を写したものである。そこにある日本建築は桂離宮を模したもので、使われている瓦や木材はすべて日本から運ばれたものである。この写真が撮られたときも展覧会場では来場者に向けた盆栽教室が日系人を講師として行われていた。また表紙上の写真は、サンパウロの日系人が多く集まるリベルタージ地区において毎週日曜日になると行われている東洋市の様子である。この東洋市では日系人が竹細工など民芸品の屋台を出したり、また焼きそばや今川焼きといった日本食を食べさせるコーナーも作られ、多くの人で賑わっている。

### 編集後記

非文字資料研究センターの第2期研究プロジェクトがスタートして早くも10ヶ月が過ぎようとしている。第1期研究プロジェクトの総括のもと、引き継がれた共同研究テーマもあれば、また新規のテーマで出発したものもある。今号において研究調査報告としてあげられた共同研究「水辺の生活環境史」は新規のテーマとして始まったものである。タイトなスケジュールの中おこなわれた北九州（洞海湾）における共同調査の中間報告をしていただいた。それに対して、もう1本の研究調査報告となる「海外神社跡地から見た景観の持続と変容」共同研究は第1期からの継続テーマである。こちらは継続ということもあり、第1期からのさらなる展開として台湾調査の報告をいただいた。また、併せて7月23日に開催された第4回研究会の様子が報告されている。「東アジアの租界とメディア空間」共同研究と併せて、第1期からの活発な研究会活動の様子がうかがわれる。第1期から第2期研究プロジェクトへの展開に伴い、本センターには多くの新たな研究員が加わったが、慣例として新研究員の方々には本誌に自己紹介を兼ねて研究エッセイを執筆いただいている。前号では3名の方を紹介したが、今号でも熊谷研究員、泉水研究員、吉川研究協力者のお三人にご自身の研究について興味深いご紹介をいただいた。今後は本センターの共同研究メンバーとして活躍が期待されるお二人である。